

★カメラレポート★
秋晴れの下、ウォーキング!!

10/11 第32回さわやか健康ウォーキング

10月11日(日)、第32回さわやか健康ウォーキングを開催しました。新型コロナウイルス感染症や台風14号の影響も心配されましたが、当日は12チーム45名の方にご参加いただき、国府の史跡を巡る約3.5kmのコースをウォーキングしました。今年は92歳の方の参加もあり、それぞれのペースで、史跡の見学や関門でのゲームを行い、ゴールを目指しました。
ウォーキングは気軽にできる運動で、心肺機能の強化や脂肪燃焼、美肌などにも効果があります。毎年、市内のどこかにコースを設定し、開催しておりますので、みなさまのご参加をお待ちしております。



▲ 9/28 明治安田生命保険相互会社「南国市と南国市士の健康増進に関する連携」締結式(市役所)



▲ 10/1 スマイルーハート人権講座「災害と人権～全ての人の人権が大切にされる避難所を目指して～」(市役所)



▲ 10/2 市長に市政を聴く会(国府地区)



▲ 10/6 スマイルーハート人権講座「地域にある孤立や孤獨について～生活困窮者自立支援事業から見たもの～」(市役所)



▲ 10/9 スマイルーハート人権講座「視覚障がい者になった私の生活」(市役所)



▲ 10/12 男女共同参画推進出前教室(三和小学校5年生)



▲ 10/12 男女共同参画推進出前教室(三和小学校6年生)



▲ 10/13・20・27 農家レストランまほろば畑10周年祭(道の駅南国風良里)



▲ 10/19 中国四国農政局高知南国農地整備事業所が開所(高知南国農地整備事業所)



▲ 10/20 スマイルーハート人権講座「日本における女性解放の歴史」(市役所)



▲ 10/23 四国電力株式会社より防犯街路灯寄贈(市役所)



▲ 10/24 男女共同参画推進出前教室(日章小学校5,6年生)

高知県戦没者追悼式が県民文化ホールにて11月1日に開催されました。
追悼式の中で鳶ヶ池中学校3年の窪田麻衣さんが作文を朗読しましたので紹介します。

平和の花

南国市立鳶ヶ池中学校 窪田 麻衣

今年、私たちは新型コロナウイルス感染症の流行により、様々な制約をうけることになりました。当たり前だったことが当たり前でなくなり、普通でなくなった日々の中で、改めて学校に行って友達と遊び、遊び、普通で過ごすことができる毎日がどんなに幸せなことなのかを知りました。そして、昨年、修学旅行で沖繩を訪れて平和学習をしたことが、本当に貴重な体験であったと思えば返すようにもなりました。また、沖繩に実際に行ってみて、本当に過酷な戦場だったことが実感として分かりました。

とりわけ、ひめゆり平和記念資料館で見た手記は、忘れられませんが、私と同じくらいの歳の女の子が看護師となつて兵士たちを看護した話でした。そこには平常心でいられず暴れまわる人、腕や手を切断されて苦しむ人が沢山収容されていたそうです。私と同じくらいの子供が、その中で必死に看護をしていたことを考えると胸がしめつけられます。恐ろしくて地獄のようだと書いてありました。暗い壕の中の悲惨な状況を想像することさえつらくなります。

修学旅行の中では、語り部さんのお話を聞く学習もありました。語り部さんは、私たちに責任があると語ってくれました。その「責任」とは、戦争の悲劇を語り継ぎ、私たちが現在の平和を守ることではないかと、私は受け止めました。友達と共に遊び、学び、そして夢を語る今に感謝し、現在の平和が続くように私たちがまず努力しなければならぬと考えます。そのためには、一人一人が戦争についてしっかりと知ることが必要だと思えます。

昨年私は、新聞記事を通して対馬丸撃沈事件について学び、考える機会がありました。疎開中の子供たちを乗せた船が撃沈されたこの事件は、とても痛ましいものでした。戦争では、軍人だけではなく一般の人々が犠牲になることがあるのだという歴史として事実を

改めて思い知りました。その記事には、私と同じくらいの生徒が現地でこの事件を取材し、平和を願って桜の木を植えたことが記されていました。今の私たちにできる最大の力は、そうやって戦争や平和について学び、語り継いでいくことなのだろうと、と考えさせられました。生徒たちが植えた桜が、平和を象徴する花となつて美しく咲き続けて欲しいと思います。今、私たちは社会の授業で国際問題について学んでいます。広く世界を見渡してみると悲しい戦争や紛争が絶えず、つらい思いをしている人が沢山います。戦禍によって、多くの尊い命が奪われ、住む場所を追われて飢えに苦しむ人々がいるということも知りました。

私たち日本人は、七十五年前、多大な犠牲を払った戦争をしました。七十五年の間、同じ過ちを繰り返さないため、日本は戦争をしていません。そんな戦争をしない世の中がずっと続いてほしいです。日本は、戦争の愚かさや平和の尊さを世界に向けて訴えていかなければならないと思います。

また日本では、戦争を体験した人が少なくなり、私たちの世代が戦争体験者から実際に話を聞くことは難しくなりました。しかし、難しくなつたからこそ、私たちができることがあるのだと思います。グローバル化が進む現代。国境や国籍は関係なく、他の国の人とも手をとり合つて、平和について考えていくことが大切だと思います。今年には戦後七十五年。しかし、コロナ禍によって私たちに、まだ自由にできないことがあります。私は、ただでいいではなく、できることから始めることが大切だと思います。戦争に関する学びや平和を維持するための活動も、できることを続けていかなければならないと考えます。

私自身も、こうして学んだ沖繩の悲劇や、戦争によって引き起こされた悲劇を心に刻み、未来に向けて、平和の花を咲かせたいと願っています。